

今号のラインナップ：在外選挙広報アンケート活動を全国で開始！ / アンケート活動に参加して / ウリマル開講式特集 / 活動紹介 / 情勢 NEWS / お知らせ / 編集後記

在外選挙広報アンケート活動を全国で開始！



4月革命から51周年を記念して4月17日、「4月革命51周年記念・青年学生集会」を関東、中部、近畿の三地協で開催しました。各地協で「4月革命の現代的意義と2012年の政治決戦に向けて」というテーマで記念講演を行ない、在外同胞が初めて投票に参加する2012年の国政選挙で進歩陣営が勝利し、6・15共同宣言と10・4宣言を履行する政権を打ち立てるための2011年運動の出発点としました。

特に、在日同胞社会に広く在外選挙実施を広報するためのアンケート運動を熱誠的に展開していくことを確認し、青年が先頭に立って積極的に地域同胞宅を訪問して、在日同胞が直接国政選挙に初めて参与できることの歴史的意義を伝え、一人でも多くの同胞が投票に参加するよう呼びかけていくことを共同決議しました。

そして、「光州民衆抗争31周年－在日韓国人地域集会」が5月15日に関東、東海、関西で、14日に広島でそれぞれ開催され、多くの盟員が積極的に参加しました。「平和を実現し、政治決戦に勝利しよう」というテーマで講演が行なわれ、激動する現情勢を学ぶとともに、真の民主主義を勝ち取るためにも2012年の政治決戦に勝利することが現時代の課題であるという認識を共有しました。

この集会ではアンケート運動の展開状況も確認され、地域での活動報告が行なわれました。ここで報告されたのは、韓青の十八番である地域展開、戸別訪問です。韓青関東地協が全国に先駆けて東京の在日同胞密集地域である三河島地域で戸別訪問を展開して、多くの同胞が記入したアンケートをもって集会に参加していました。

参加した青年の声を紹介すると「ほとんどの地域同胞は、在外国政選挙権付与の事実を知らなかった」「在日同胞の声が直接祖国に届くようになることに対する期待感が大きいと感じた」「ウリマル教室の勧誘には無反応だった同胞世帯からも『韓青、良いことしてるな！』と感激された」と参加者のほとんどが肯定的な反応を得ており、公正・公平な選挙実現のための広報活動、アンケート運動に大いに手応えを感じていました。

また「在日同胞が投票できたところで影響力がないのでは」というような否定的な意見も一部ありましたが、玄関先でもじっくりと話す中で、ともに参加することで変えていける可能性がどんどん大きくなるという共感を得ることができました。

関東だけでなく、これから全国各地の拠点で地域への戸別訪問活動が展開されていきます。地震被害からの復興や原発事故の問題など、日本全体が不安に包まれている時節ですが、萎縮することなく祖国と在日同胞の未来のために、韓青はより熱誠的に活動していきます。

もしご自宅のインターフォンが鳴ったら、その時は青年が汗をかきながら必死に語る2012年の在外選挙の話、祖国の未来の話に耳を傾けてください。そして、ともに在外選挙に参加していきましょう！

公正公平な選挙広報活動（関東地協）

東京本部 カン・チョル

5月15日、2012年政治決戦に向けて、第1回目の関東地協選挙広報活動を開始しました。広報するためにも、まずは先頭に立つ私たちが韓国政治の構造を理解すること！ということで、前日の夜遅く（仕事の青年や活動している人もいますので）に各支部宣伝部が一堂に集まり、当日に向けての作戦を練りました。

先日、韓国内での補欠選挙もあり、与党惨敗ニュースや民族時報・韓統連配布資料を手に、南北分断につながった単独選挙を支持した親日派＝親米保守政党の流れを確認しました。「2012年もこのままの政治ではイカン！」と氣勢を上げて、緊張する体を叱咤しつつ、朝鮮植民地解放時に「自主権を持った祖国を築こう」と行動した民族主義者たちを思い浮かべました。

当日は2人体制で班を構成し、荒川区の三河島地域を回りました。不安もありましたが、終わってみると手ごたえがあり、やれる確心を得ました（3件に1件はアンケート協力）。多くの同胞が選挙権付与や国内情報に触れる機会がない状況に置かれています。私たちは、「報道などの一方からの情報だけで投票するのではなく、様々な情報を得て、選挙に行きましょう」と公正公平選挙を念頭に訴え、今の韓国内の政治社会状況を伝えました。アンケート用紙をみると要望欄で「平和と統一」に○を付けている同胞もいらっしゃいました。南北対立ではなく6・15共同宣言、10・4宣言支持が広がったことを実感しました。回ってみた感想は、同胞たちは情報に飢えている…です。

今回の活動は、なによりも話を聞いていただけるのがうれしいです。逆に「青年たちが立派に…」と褒めていただきました。そしてそんな韓青に青年を参加させたいという思いをご家族が抱いていただければ…。東京本部では、この勢いで支部単位でも選挙広報活動を月に1回おこないます。地協でも月1回なので、月間計2回展開します。

5月1日付の民族時報主張で「選挙広報運動は未来を担う青年が先頭に…」と書かれていました。初めは「マジか?!」と思いましたが、公正公平な選挙の広報&深く同胞社会に入っていく、一石二鳥作戦は新たなやる気を持たせてくれました。

先ほども書きましたが、在日同胞は、情報に飢えています。今回は在日同胞宅に出向き、祖国への思いを私たちが伝え、6・15共同宣言、10・4宣言支持拡大と同胞社会に入っていく一大チャンスでもあり、新たな同胞たちと出会え、可能性がまた一段と広がります。私たちは祖国統一運動を推し進める主体であり、希望だと自負します。ぜひ頑張って活動しましょう。

また関東地協では、月刊で広報戸別コラムをウリマル終了の案内で報告します。今後の広報活動の戸別訪問では私たち支部常任委員以外の青年も一緒になって、韓青活動の本当の意味を行動で知りつつ、基盤拡大をします。



活動紹介

2011年度 春期ウリマル開講式を開催



春も本格化してきたゴールデンウィーク明け、各地で恒例行事である「2011年度 春期ウリマル開講式」が開催しました。5月10日の北大阪支部を皮切りに、5月11日には大阪府本部、兵庫県本部、京都府本部の各本部・支部で開かれ、ウリマル模擬授業に続いてオリエンテーションでは、年間行事紹介や夏に行われる2011年度韓青夏期全国統一講習会などの紹介をおこないました。さらに、在外韓国人にも本国の国政選挙権が付与されたことなども紹介しました。

その後はクラスと講師の発表、紹介などが行われました。その後、各本部・支部で交流会が開かれ、地域の同胞青年同士の交流と親ばくを深めていきました。

また、神奈川県本部と愛知県本部、三重県本部は18日、東京本部は3支部合同で28日にウリマル開講式を開催しました。神奈川県本部ではウリマルの成果発表など半年間のウリマル学習の成果を確認しました。三重県本部ではウリマルによるディベート＝討論などが行われていきました。

東京本部では支部対抗ウリマル寸劇をおこない会場からは大きな笑いが響き渡りました。

このように各本部の独自性をいかした熱気と同胞どうしで語り合えたとても充実した春期ウリマル開講式となりました。

また各本部ではこれから半年間、ウリマル学習を頑張ることを参加者全体で共有したとともに、夏期期間の行事とともに熱誠的に取り組み輝かしい、有意義な夏期にしていこうと思いを共有しました。



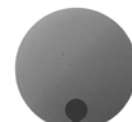
韓国語教室
「ムグンファ」

見学・体験レッスン随時受付！

担当：金梨恵(キム・イヘ)
080-6510-1973

韓国語教材専門インターネット書店

ハングルの森



Internet Bookstore

한글의 숲

<http://www.rakuten.co.jp/eac-hg/>

活動紹介

第15回統一マダン神戸



5月22日神戸市長田区の若松公園にて、「第15回統一マダン神戸」が開催されました。主催は同実行委員会で、6・15共同宣言実践日本地域委員会、北側オリニ栄養パン工場兵庫県事業本部、および兵庫県、神戸市、長田区などが後援しています。

今年は、3月に発生した東日本大震災の被害を受け、同じく1995年の阪神大震災で被災した地域のマダンとして「とどけ神戸から ころと力」というメッセージを掲げ、被災地支援を強調するマダンとなりました。

ました。

当日は午前から激しい雨が降り、準備に多大な支障をきたしましたが、実行委員会をはじめとしたスタッフの健闘により、無事開催にこぎつけることができました。

震災復興支援に関しては、大きな被害を受けた東北朝鮮初中級学校への支援のため、同校のユン・ジョンチョル校長を招き、被害状況の報告を受けました。ユン校長は「物理的な被害もそうだが、子どもたちに与えた心理的なショックも大きく、現在は学校生活の復旧に全力を注いでいます。このように神戸の地から震災に共感し、支援していただけることをとても感謝します」と述べました。アピールを受けた後、会場で支援カンパを募り、ユン校長に伝達しました。

また、来年の2012年韓国国政選挙にむけた広報活動も積極的に行いました。「ウリ参与センター」ブースを会場に設営し、韓青のメンバーが作成した韓国国政選挙への在外同胞への参与の方法と意義、韓国の各政党の紹介を内容とした展示を会場に設置することによって、参加者に大きな関心を持たせることができました。在日同胞を対象としたアンケート活動も大々的に行い、地域の在日同胞との対話と広報をおこないました。

さらに、韓青と朝青との合同アピールを一昨年、昨年に続きおこない、民族教育への支援などをともに民族の共通課題として取り組んでいくことを訴えました。

また、韓国から北側オリニ栄養パン工場の韓国事業本部も駆けつけて下さり、朝鮮学校への支援金の伝達やパン工場事業のアピールをおこないました。

ステージ上で繰り広げられる民族舞踊やチャンゴなどの伝統打楽器演奏、さまざまな料理が立ち並ぶ屋台も、マダンを大きく盛り上げてくれました。

チェ・ヒョヘン実行委員長は今回のマダンの成果を受け、「今回の東日本大震災は、阪神淡路大震災を経験した私たちの想像を遥かに超えるものでした。しかし、被災した人々の振り絞る勇気の中で、確実に生まれるであろう希望に、私たちは寄り添い続けたい。今日、私たちの頭上に広がる大空は、東日本と朝鮮半島、そして世界に続いています。韓国国政選挙への投票を始めとして、すべての人々が統一のために、自分が今出来る『何か』を発言し、行動して行きたい」と語りました。



歴史の意志を実践する！

今回から連続企画「歴史の意志を実践する！」が始ります。このコーナーでは、裴東湖記念研究所より発行されている『歴史の意志を実践する－研究所通信 唯物弁証法と民族主義で読む「愛国論」の世界』の学習を通じて、韓青盟員が理論学習を積み、日々の実践に還元していくために、そして民族的に生きる力としていくために、学習のフィードバックレポートを掲載していきます。今回は第一回目として、学習に臨むにあたっての決意を、全国の同志にむけて、白副委員長が述べてくれました。

同志たちよ！ともに歴史の意志を実践しよう！

白康喜

韓青の現場活動に忙しいとき、土曜も日曜も無く活動に迫られているとき、後輩から鋭い質問を投げかけられて返答に困ったとき、等々、様々な場面で「自分は何故この活動をしているのだろうか」「この運動とは、一体何なんだろう」といった想いがふと頭をよぎった、という経験された幹部も少なくないかと思います。私もいわゆる韓青幹部となって7年の月日が経ちますが、つい最近までこのような想いをする瞬間がありました。そんな自分が、統一運動や韓青活動の意味を体の奥までしみわたるようにしてくれたのが、「研究所通信」「歴史の意志を実践する」でした。研究所通信時代から、送られてきては時間を見つけて何度も読み返し、「歴史の意志を実践する」が発刊されてからも、何度も読んで、自分自身で噛み砕きながら、理解をしていたものだと、そう思っていました。

そして今回、この「歴史の意志を実践する」をもとに幹部学習会を行うということで、事前レポートを提出が課題として提示されました。全23項目からなる質問を、本の中から抜き出すような形でのレポートでした。私の場合、まずは、質問に対して自分自身の頭にあることを鉛筆で軽く書きましたが、情けないことに空欄が目立ちました。その後、「歴史の意志を実践する」から抜き出していきましたが、そこで愕然としました。いくつかの項目に関して、自分の頭で思っていたこととの違い、もう少し言えば、これまでの活動の中で誤った解釈をしていたことに気付いたのです。それは、何とも言えない、焦りにも似た感覚が、全身を覆ったのを今でも覚えています。

韓青の威力は、統一と団結から生まれます。その統一と団結に必要なものは何でしょうか。それは、韓青同志間における、言葉に対する共通の定義と深い理解、共に人生を歩むための同じ人生観・世界観、そこから生まれてくるものだと思います。それがまさに「歴史の意志を実践する」の中にあるのです。しかし、ただ読むだけではここに書かれている壮大な世界観や人生観は体得できません。また、私たちが在日同胞に降りかかる差別や抑圧が、祖国の分断という根本矛盾から生まれるものであることを、この「歴史の意志を実践する」は伝えてくれます。しかしこれもまた、ただ読むだけでは深く理解するまでにはたどり着けません。それは、事前レポートを通して主体的にこの本を読み、そして学習会の場で疑問や質問、そして自分自身の想いを討論させることで、体に刻まれていくものだと思います。難しい言葉もありますし、難解な部分もあるかと思います。しかし、この学習会は、何よりもこの本を書かれた金政夫所長が目の前に座り、私たちの素朴な疑問にもしっかりと答えてくれる、そんな学習会です。どんな疑問も一つ一つ目の前に出し、一つ一つ整理していくことができる非常に大切な機会だとも思います。

韓青同志たち！今まさに、韓青はその真価を問われています。前述したように、韓青の威力は、統一と団結から生まれます。私たちは共通の言葉と世界観をもって、祖国統一運動を強く推し進めなければなりません。韓青同志たち！今こそその時です。学びましょう。ともに歩みましょう。肩を組み、人生を共にできる同志になりましょう。そのために、この学習会に是非とも主体的に参加していきましょう。それこそが、私たちの「歴史の意志を実践する」その第一歩となるのですから。

～2012年 政治決戦に向けて～

そうだったんだ！ 国政選挙

2009 年、韓国国会で公職選挙法などが改正されたことで、韓国籍を有する在外韓国人にも本国の国政選挙権が付与されました。同法は 19 歳以上の韓国籍でパスポートを保有する永住権者に、大統領選挙と総選挙の比例代表投票権を付与することを骨子としています。

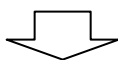
具体的には、2012 年の総選挙（4 月 11 日）と大統領選挙（12 月 19 日）から在外国民の選挙権が行使されます。投票は海外 167 か所の在外公館などでおこなわれます。（日本には札幌・仙台・東京・横浜・新潟・名古屋・大阪・神戸・広島・福岡の 10 ヶ所に領事館があります）

このコーナーでは、私たち在外韓国人が初めて参与することになる韓国国政選挙に関して、様々な選挙情報をお伝えしていきます。初回となる今回は投票までの流れをご紹介します。

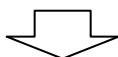
Vol. 1 投票までの流れ

【2012年 総選挙について】

- ①2011 年 11 月 13 日～2012 年 2 月 11 日
第 19 代国会議員選挙 在外選挙人登録申請
- 最寄りの領事館で行います。在外選挙人登録申請には、①旅券のコピー ②外国人登録原票記載事項証明書が必要です



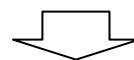
- ②2012 年 3 月 12 日
在外選挙人名簿が確定
- 3 月 17 日までに、①在外投票用紙 ②在外選挙案内文などが在外選挙人に送付されます



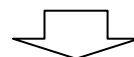
- ③2012 年 3 月 28 日～4 月 2 日
国会議員選挙の在外投票（この期間内で定める期間）※本国は 4 月 11 日
- 最寄りの領事館で行います。投票には①旅券 ②送付された投票用紙 ③発送用封筒 ④回送用封筒が必要です

【2012年 大統領選挙について】

- ①2012 年 7 月 22 日～2012 年 10 月 20 日
第 18 代大統領選挙 在外選挙人登録申請
- 最寄りの領事館で行います。在外選挙人登録申請には、①旅券のコピー ②外国人登録原票記載事項証明書が必要です



- ②2012 年 11 月 19 日
在外選挙人名簿が確定
- 11 月 24 日までに、①在外投票用紙 ②在外選挙案内文などが在外選挙人に送付されます



- ③2012 年 12 月 5 日～12 月 10 日
大統領選挙の在外投票（この期間内で定める期間）※本国は 12 月 19 日
- 最寄りの領事館で行います。投票には①旅券 ②送付された投票用紙 ③発送用封筒 ④回送用封筒が必要です

◎ぜひ皆さんで選挙に参加して一票を投じましょう。

詳細は「ウリ選挙在日参与センター」のホームページ <http://urisenkyo.com/index.html> をご覧下さい



情勢NEWS

完全破綻した李明博大統領の対北政策

4月27日、韓国15カ所で再補欠選挙がおこなわれました。この選挙は李明博政権3年間の中間評価として「国民の審判」をすることで、2012年の政治決戦（4月総選挙・12月大統領選挙）に向けた重要な試金石となるとして注目されていました。

結果、統一候補に代表される選挙連合を形成した野党は、ハンナラ党を圧倒しました。特に、与野決戦場と位置付けられた国会議員選挙3地区と江原道知事選挙でも、民主党が2名の国会議員と知事を、民主労働党が1名の国会議員を獲得するなど、「国民の審判」を選挙結果に正しく反映させました。

つまり、李明博政権3年間の対北対決政策と庶民生活などに対する国民の不安と怒りを、反保守の大連合がきちんと受け止めながら、世論を喚起して浮動層を呼び起こすことができました。それは、平均投票率32.8%に対して、今回の投票率が39.4%であったことが物語っています。

「国民の審判」は選挙だけではなく、メーデーでは6万5千人の労働者が李明博政権に「最後通告」を送り、各地で開催された光州民衆抗争31周年行事では「5月の英霊たちの意志を継ぎ、進歩勢力が一つに団結して2012年に新しい社会勢力を作ること」を決意しています。

厳しい「国民の審判」を受けるハンナラ党の内部では、責任のなすり合いが始まり、その矛先は李明博大統領に向っています。

安商守前代表は、退任記者会見で「（李明博大統領は）国民との疎通が不足している」と指摘しながら、不満を爆発させました。また、党内の約40人の議員が「新たなハンナラ」というグループを立ち上げて、政権3年間の「特定勢力による権力の独占」「時代錯誤的な民間査察」と批判しました。

このように、国民からも身内からも「厳しい審判」



対話を訴える国民の声（光州民衆抗争31周年行事）

を受けている李明博大統領ですが、国際関係においても苦しい立場に追い込まれています。

6者協議の再開に向けて「3段階案」が合意されました。これは、①南北の6者協議代表による対話 ②朝米による対話 ③6者協議へと段階を踏んでおこなおうというもので、これまで「北との対話」へ難色を示してきた李明博政権の動きを国際政治の力学によって封じ込めるものになります。核問題をテーマにした多者協議の一環として対話する以上、「北の謝罪」などといった無理難題を持ち出すことは許されないということになるからです。

4月末のカーター米元大統領らの訪朝とその報告の記者会見では「如何なるテーマについても前提条件なく（首脳会談も含めた）協議に出る」という北側の立場を世界に広報することになり、李明博大統領の対北対決姿勢が緊張緩和の障害であることを暗示しました。

翌日、WFPが対北食糧支援を発表したことに続き、アメリカもその調査を開始しました。これらの動きは、アメリカが完全に「北との対話」へ舵を切ったことの証左と言えるでしょう。

このように、国民、政権基盤、米国から「NO!」を突きつけられた李明博大統領の対北政策は、完全に破綻しているのです。今こそ、「北との対話」を決断しなければなりません。

■ 東日本大震災被災者救援・被曝防止対策委員会 ■

宮城県山元町の山下中学校で炊き出しをしました。



在日韓国民主統一連合（韓統連、孫亨根議長）は東日本大震災被災者救援・被曝防止対策委員会からなるメンバーで5月7日、宮城県山元町の山下中学校で炊き出しを実施しました。

5月8日現在、661人死亡、約90人行方不明、約1180人避難、住宅約2020棟全壊という被災地である山元町は、今回の大震災ではだれもが家族、親せき、友人、職場の同僚らのだれかを亡くしているという場所でした。車中から見た景色に、啞然とさせられました。

瓦礫の山が見える限りつづいていました。たくさんの生命や財産が奪われ、人間の力がまったく無力であることを思いしらされました。

そんな中、山元町立山下中学校の避難所を訪れ、「山元町のみなさん応援しています! 負げんでねっど! 韓統連・韓青・民主女性会炊き出し隊」を組織し、韓国料理（トック・キムチなど）の炊き出しを行うとともに、韓青はプンムルなど民族楽器の演奏も披露して被災者の方々を慰労していきました。



避難所の方々からは珍しい韓国料理に「初めて食べた」、「とてもおいしい」との感想をいただきました。参加者からも「私たちにできることはささやかで、支援なんて呼ぶにはおこがましいが、喜んでもらえた。短い時間でも子どもたちの笑顔がうれしかった」、「自分自身も貴重な経験をすることができた。本当に参加してよかった」との感想をもらいました。

*対策委員会：TEL 03-3862-6881 / fax 03-3862-6882

E-MAIL: chuo@korea-htr.com ホームページ: <http://www.korea-htr.com/chuo/>

*韓青のホームページ <http://www.hanchung.org/> でもリンクしております。

被災された方々に心からお見舞いを申し上げます

編・集・後・記



今月号から韓青通信をリニューアルしました。内容は「2012年政治決戦にむけて」「歴史の意志を実践する」という2記事を連載記事としてこれから継続展開していきます。これからもっと役立つ情報を発信できるようにがんばっていききたいと思います。(ソ)